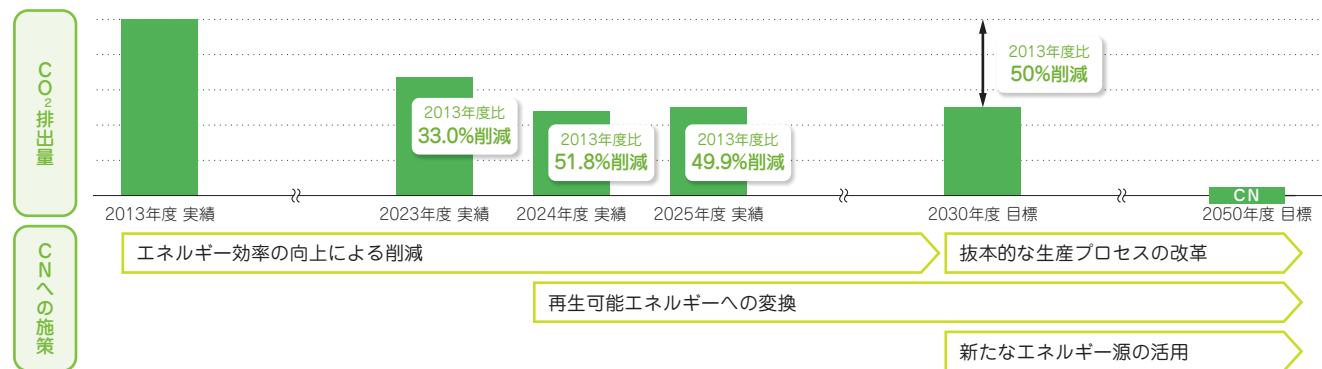


●カーボンニュートラルへの挑戦

世界的に気候変動対応が求められているなか、化石資源を用いて事業を行う当社にとっても、CN(カーボンニュートラル)は非常に大きな責務であると認識し、2030年度までに国内事業所からのCO₂排出量を2013年度比で50%削減、そして2050年度にはCNを達成するという目標を掲げ、CNの実現に向けた取り組みを推進しています。

2025年度のScope1およびScope2のCO₂排出量は、22,091tであり、基準としている2013年度に比べ、49.9%の削減となりました。



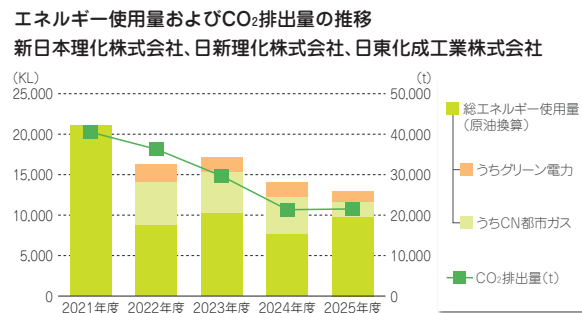
●CO₂排出量削減に向けたアプローチ

2022年度に立ち上げた、全社横断型組織であるCN推進室を中心に、省エネや製造プロセスでの燃料効率向上の取り組みに加え、再生可能エネルギーの調達を進めています。

省エネ改善提案からのエネルギー使用量削減の取り組み

2025年度は、省エネの取り組みと生産数量の減少もあり、総エネルギー使用量(原油換算)は、13,028KLであり、前年と比較して6.8%の削減となりました。

2025年度からは、非化石証書の活用により柔軟な再エネ調達を開始しています。



～京都工場 変圧器 適正更新による省エネ化～

業者による活線点検の際、京都工場屋外キュービクル内の変圧器に絶縁破壊の兆候が確認されました。対象となった変圧器は、過去に容量アップした際、省スペース設置の要請からモールド式が選ばれた経緯がありました。今回、担当の電気主任技術者が使用実態を綿密に調査し、油入式150kVAで十分に機能することを実証しました。結果として、更新にかかる工事費を約500万円抑制するとともに、年間電力費約75万円、年間CO₂排出量12,500kgの削減を同時に達成しました。

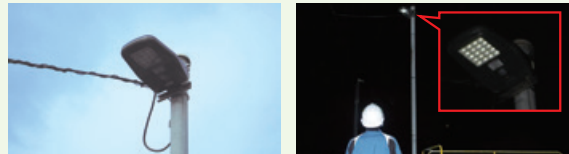


担当者のコメント

単純な機器更新でおさめることも可能でしたが、現在の電力使用量に対して既存の変圧器容量・種類では無効電力損失が大きいと考え、抜本的な見直しを実施しました。より効率の高い油入変圧器へ機種を変更し、設備容量も適正化することで、無効電力の大幅なカットに成功しました。結果として、ランニングコストの抑制だけでなく、CO₂排出量の削減という環境貢献にもつなげることができました。

～電源のない箇所に太陽光照明設置～

「安全な明かりを灯したい」という設備保全課従業員のアイデアから生まれた、現場発意の改善活動です。通常、屋外への新たな街路灯設置には約10万円の電気配線工事費が発生しますが、今回は自律型太陽光照明の採用により工事費をゼロに圧縮し、大幅なコスト削減を実現しました。当社は今後も、持続可能な事業活動と、自律的に考え行動する人材の育成を推進してまいります。



担当者のコメント

敷地内の最終排水経路は外部電源がなく、夜間巡回時の安全確保が課題でした。そこで、電線を引かない自律型の太陽光発電照明を採用しました。これにより施工時の環境負荷を抑え、運用時の消費電力ゼロという確実な省エネを達成しています。悪天候時や災害停電時にも消えない明かりとして、環境配慮と防災、そして従業員の安全を同時に実現することができました。

トピックス ケミカルマテリアルJapan2025

ケミカルマテリアルJapan2025に出展し、「環境負荷低減に技術で貢献」をテーマに掲げ、環境配慮型製品を広くアピールしました。具体的には、100%植物由来のエモリエント剤「RIKANATURA」や、プラスチックの環境負荷を低減するバイオマス改質剤「グリーンサイザー」、省エネとリサイクル材活用を推進する樹脂の結晶化促進剤「RIKACRYSTA」、PFAS規制に対応する代替材料などを展示しました。全事業部を挙げた提案により、目標を上回る586名の来場者に自社の環境配慮技術を周知し、企業の社会的責任として社会課題解決に貢献する企業姿勢を力強く発信しました。



研究担当者のコメント

我々研究者にとって市場の「生の声」に直接触れる非常に有意義な機会となりました。自社の開発品について直接顧客と専門的なディスカッションを行うことで、想定していなかった用途への引き合い(化粧品以外のウレタン用途など)や、光学特性だけでなく機械特性も求められること、さらには固体よりも液状の酸無水物が好まれるといった、リアルな市場ニーズを肌で感じることができました。また、他社ブースの訪問や講演会の聴講を通じて、競合の動向や業界の最新トレンドを収集できたことも大きな収穫です。今回得られた貴重なフィードバックや新たな人脈を、今後の新規材料開発や技術のブラッシュアップに確実につなげていきたいと思っています。

営業担当者のコメント

目標を上回る集客を達成できたことは、当社の認知度向上に大きく貢献しました。直接お客様の生の声に触れることで想定外の用途での引き合いも生まれ、サンプル希望数が前年比67%増の49件となるなど、将来の成長に向けた確かな手応えを感じております。一方で、展示会後の面談獲得数は目標の半数にとどまりました。今後は、獲得した貴重な接点を確実な価値提供へとつなげる「機会創出力」の強化と迅速なフォローアップに取り組み、持続的な事業成長を目指してまいります。

環境価値創造への取り組み～研究開発品の紹介～

RIKACRYSTA

PPやPEに代表されるポリオレフィン樹脂の結晶化速度を従来よりも早めることで、成形加工時間の短縮と生産効率の向上を図る結晶核剤です。成形加工時のエネルギー使用量の削減や不良品の削減効果が期待できます。

ポリオレフィン樹脂だけではなく、生分解性のバイオプラとして有名なポリ乳酸(PLA)の結晶化速度を早めることも可能です。PLAは結晶化速度がきわめて遅く、結晶化が不十分であると耐熱性が50℃程度と低くなりますが、RIKACRYSTAを1wt%添加することで耐熱性を110℃程度まで向上させることが可能です。



RIKANATURA

化粧品原料向けに開発した植物由来のエモリエント剤であり、ヘアケア、スキンケア、メイクアップ、サンケアなど様々な用途に有用です。鉱物由来であるシリコン代替としての揮発性に優れる点や、艶感や軽いテクスチャー、臭気が無い点が好評です。



エヌジェルブ

植物由来オイルの課題であった低温流動性を克服し、鉱物由来オイルの代替となる植物由来エステル油です。モビリティや産業機械向け潤滑油のバイオマス化に貢献します。



グリーンサイザー

石化由来であるDINPなどの汎用可塑剤と同等以上の性能を持つ可塑剤をバイオマス原料で製造しました。バイオスマークも取得しており、塩化ビニル製品のバイオマス化に寄与します。



サンソサイザー

主に自動車向けで使用される高耐熱用可塑剤サンソサイザーDL911Pは、優れた耐熱性を備えた環境配慮グレードとして国内外への普及を目指します。

トピックス CITE JAPAN 2025 (第12回 化粧品産業技術展)

2025年5月14～16日にパシフィコ横浜で開催された、CITE JAPAN 2025(第12回 化粧品産業技術展)に出展しました。紹介したのは新規開発品である植物由来のエモリエント剤RIKANATURAと、既存品のシノリン、リカマイルド、エヌジェコープ、リカピオンです。ブースには体験ゾーンを設け、RIKANATURAを手塗って軽い感触や臭いの少なさを実感してもらいました。また、それぞれの製品を配合した処方物(ヘアオイルやシャンプーなど)を展示して、化粧品に配合したときのメリットをアピールしました。3日間で356名もの方にブースを訪問していただき、サンプル依頼も多く、盛況でした。



研究担当者のコメント

今回の展示会では、ポスターや処方物の作成、およびブースでの製品説明を担当いたしました。当日は多くの化粧品技術者の方々と直接交流し、原料に対する最新のニーズや率直なご意見を伺うことができ、大変貴重な対話の場となりました。新規開発品「RIKANATURA」のお披露目をメインとしつつも、これまで当社製品に触れる機会がなかったお客様に既存品の魅力をお伝えすることができました。この活動を通じて当社の認知度向上を図るとともに、今後のより良い製品開発やご提案につながる有意義な機会になったと感じています。